

## 新型コロナワクチンの接種会場運営訓練を実施しました

市では、守山野洲医師会の全面的なご協力をいただきながら、4月からの新型コロナワクチン接種の実施に向けて、準備を進めています。

そこで、2月23日に新型コロナワクチンの集団接種会場となる市民体育館で、本番を想定した運営訓練を実施しました。

訓練には、守山野洲医師会、守山野洲薬剤師会、湖南広域消防局、被接種者役(民生委員・児童委員、近江守山ライオンズクラブ)の皆さまにご協力いただき、市職員を含め計175人で行いました。

### 【接種会場での流れ】

①検温→②受付→③予診票確認待ち・検温→④予診票確認→⑤予診→⑥接種→⑦接種済証発行→⑧経過観察



接種の手順を確認



救急対応の訓練も実施

## 日曜日に窓口業務を行います

市民課 ☎・☎(582)1122 ☎(583)9737

転入や転出などの届け出が集中するため、下記の日時に転入・転出・転居に伴う各種手続きに関する業務や諸証明書の発行を行います。なお、4月1日(木)から、ごみ減量推進課が移転するため、4月4日(日)は、市民協働課がごみ収集・分別方法の説明(日程表の配布)を担当します。

☎3月28日(日)、4月4日(日)午前8時30分～午後5時15分(マイナンバーカードの交付は午後3時まで)

☎市役所本庁(速野支所、中洲支所は開庁しません)

### 取り扱う業務と担当課

取り扱い業務	担当課・問い合わせ
・住民異動届(転入・転出・転居) ・印鑑登録 ・各種証明書の交付(住民票、印鑑登録証明書など) ・マイナンバーカードの交付(午後3時まで)	市民課 ☎・☎(582)1122
・課税(所得)証明書の作成(市民課で交付)	税務課 ☎・☎(582)1115
・児童手当申請手続き	こども家庭相談課 ☎(582)1159
・乳幼児福祉医療費受給券の発行や変更 ・住民異動届に伴う国民健康保険証の発行	国保年金課 ☎・☎(582)1120
・ごみ収集、分別方法の説明(日程表の配布)	ごみ減量推進課 ☎・☎(582)1121 ※4月4日(日)は市民協働課☎・☎(582)1148
・水道メーターの開栓業務(事前連絡要) ・水道の名義変更の受け付け ・水道料金や下水道使用料の収納など	経営総務課(水道サービスセンター) ☎(582)1144

## 新型コロナワクチン接種についてのお知らせ

☎感染症対策室 ☎(598)5711 ☎(582)1223

新型コロナワクチンの接種について、4月から数量を限定してワクチンの供給が徐々に行われることから、市では高齢者に対する接種券を4月上旬に発送し、接種を4月下旬から開始する見込みです。接種日時などが正式に決定次第、広報もりやまや市ホームページで順次お知らせしていきます。

なお、この情報は3月4日時点のものであり、変更になる場合があります。



### 新型コロナワクチンの接種について

- ・新型コロナワクチンの接種は、国の指示のもと守山市が実施します。
- ・新型コロナワクチン接種の費用は、全額国が負担し、**希望する人は無料で接種が可能です。**
- ・同じ種類のワクチンを2回接種する必要があります。接種の間隔は、ワクチンによって異なります。(ファイザー社：21日、アストラゼネカ社・モデルナ社：28日)

### 新型コロナワクチン接種における注意事項

- ・新型コロナワクチンの接種に当たっては、本人の同意または保護者による同意が必要です。市も、ワクチンの有効性や副反応について情報提供を行いますので、確認のうえ、接種の予約をお願いします。
- ・治療中や投薬、定期的に通院している人などは、事前に主治医にご相談ください。

### 新型コロナワクチンについて(首相官邸ホームページより)

- ・**新型コロナワクチンは、発症を防ぐ効果が認められています。**  
 今回新たに承認された新型コロナワクチンは2回の接種によって、95%の有効性で、発熱やせきなどの症状が出ること(発症)を防ぐ効果が認められています(インフルエンザワクチンの有効性は約40~60%)。
- ・**どんなワクチンでも、副反応が起こる可能性があります。**  
 一般的にワクチン接種後には、ワクチンが免疫をつけるための反応を起こすため、接種部位の痛み、発熱、頭痛などの「副反応」が生じる可能性があります。治療を要したり、障害が残るほどの副反応は、極めて稀ではあるものの、ゼロではありません(予防接種による健康被害は救済制度の対象です)。  
 今回新たに承認されたワクチンの国内治験では、ワクチンを2回接種後に、接種部位の痛みは約80%に、37.5度以上の発熱が約33%、疲労・倦怠感が約60%の人に認められています。  
 ワクチンに含まれる成分に対する急性のアレルギー反応であるアナフィラキシーの発生頻度は、市販後米国で100万人に5人程度と報告されています。日本での接種では、ワクチン接種後15~30分経過を見て、万が一アナフィラキシーが起きても医療従事者が必要な対応を行います。  
 なお、市においては、万が一に備え、救急対応の訓練も実施しています。  
 ※ワクチンの効果や副反応については、接種券に同封する説明書にも詳しく掲載する予定です。